



レフェリーレポート

平成 29 年全日本担当レフェリー研修会

2017年6月26日

篠田政明

<研修 1 2016 年競技規則変更の概要>

- ①ゴールキーパーとコートプレーヤーの交代→ゴールキーパー不在が可能
- ・穴あきユニフォームの活用も引き続き可能→ただしベンチにて着替える
 - ・7人攻撃時のゴールキーパーはゴールキーパー不在なら交代してゴールキーパーが必ず行う
→2分間退場時の6人攻撃時のゴールキーパーはタイムアウトを取る「時間稼ぎを防ぐため」
 - ・7人攻撃時の交代違反の特定ができない場合はゴールキーパーを違反とする
 - ・ノータイムスローの時はゴールキーパーのみ交代可能
 - ・7人攻撃時のゴールキーパー不在「明らかな得点チャンス」→この時の正当なDFも7mスロー。
ただし罰則はなし

②選手が負傷した場合

- ・「続けますか？」に応じない場合は「入れます」と宣言して入れる
- ・3回攻撃のカウントはハーフタイム等を挟めば消える→タイムアウトでは消えない
- ・試合を止めず円滑に進めることを意識して各種判断を行う
- ・IHFとしては「無駄な時間を省きたい」という意図が一番大きい

③パッシブプレー

- ・明らかな遅延行為は予告合図なしに判定も可能
- ・6回カウントをベンチが数えるのは「あおる行為」と同等とみなすのでさせてはならない
- ・6回カウント中のパスカット後のカウント
 - キャッチ→1カウント
 - サイドライン越える→カウントなし

④終了間際 30 秒

- ・改訂前の項目 8.10 との考え方と混同して解釈が困難になってきている
→8.10 は元来、報告書ありが前提であったが、現在の 8.10(c)(d)ではレッド+7m スローで完了(ブルーカードは提示する必要はない→しかし 30 秒以内でもブルーカードに相当する悪質な行為については当然ながらブルーカードを提示して 7m スローもあり得る)
- ・各種スローを遅らせる行為に対して
 - スローできた→レッドにならず 2 分間退場など通常の段階罰+フリースロー
 - スローできない→レッド+7m スロー
- ・解釈や事実判定が難解の部分で今後も協議必要

⑤ブルーカード

- ・終了間際 30 秒が必ずしもブルーカードになるわけではない
- ・報告書ありということを表示する方法の一つ

<研修 2 通信機器の効果的な使用法>

- ・ペアで予測し判定前にコミュニケーションが取れることが有効活用の一例
→ターンオーバー時の見えにくいプレーを先に予測して声をかけておく「横から」「OK」など
- ・使って慣れていくことを勧めたい

<研修 3 審判員に求めること>

- ・イエローカード 6 枚を必ずしも使い切る必要はない
→明らかに 2 分間退場のプレー(8.4)であればイエローカードを使わない
- ・後半にイエローカードを使わなくていいように、前半の運営をしていくべき
- ・7 人攻撃時のゴールキーパー交代を妨げないように審判の走法は考えていくべき
- ・無人のゴール(明らかな得点チャンス)にシュートを試みた場合は 7m スローの判定が伴う
→足を使っての阻止や 6m 内でのゴール阻止については 2 分間退場がつく
- ・罰則を与えることでの表現だけでなく、ジェスチャーやボディラングージを用いながら許容範囲を示すことも重要
- ・試合開始直後からピボットゾーンをコントロールすることが重要
- ・ベンチに対しての審判からの直接罰則は当然あり得る→最近では TD がすることが多くなってきているが、審判も意識しておくべき
- ・不必要に床の濡れやボール交換などを申し出てリズム作りをする場合があるが、審判がリーダーシップをとって管理すべき
- ・負傷者への「続けられますか？」はアンダーカテゴリーでも聞くことはするべき
- ・倒れている選手がいても「クイックスタート」「速攻」は止めるべきではない
→「クイックスタート」「速攻」でなければ止めても良いが状況判断が重要
- ・ブルーカードと終了間際 30 秒については研修 1 の④⑤を参照

<研修 4 レフェリングの実際>

- ・自分自身の基本動作(イエローカードの提示の仕方など)を動画撮影し、客観的に見ると良い
- ・予測しながら徐々に間を詰めて、事象が起こった時に素早くいけるような体制をとるとスムーズ
- ・自分がいつもいる位置取りから少し変化させる(例えば GR 時に 1m 後ろに下がるなど)は視野が広がることもあるためチャレンジするべき
- ・マニュアルにはないが各種表現方法(表情やジェスチャーや間など)は常々考えておくべき

<研修 5 競技運営に関して>

- ・各種大会は可能な限り、国際基準に揃えていく必要性(例 前後半のチーム表記など)
- ・ゴールのキャッチネットはゴールインかどうかの事実判定に有効な手段
- ・ソックスの色と形は同色同形とし、コンプレッションソックスは同色とする
- ・赤とオレンジ、青とスカイブルーは OK と言える→濃淡があるため

- ・レフェリーの試合開始時の入場は先導すべきで、現状は逆が多い
- ・レフェリーは試合前にオフィシャルとコミュニケーションをとり確認しておくべき
- ・7人攻撃時にゴールキーパーにはベンチに座ることを強制しなくても良い
- ・タイムアウトカードは出そうとしたり引っ込めようとしたりは罰則対象
- ・TDはむやみに立ち上がり座っておく→立つということは何かあるということ
- ・選手が観客席に指示を受けに行く行為は注意して続くようならば段階罰→観客席が一方向的に声を出している分は対象としない
- ・ユニフォームの破損、汚損は更衣室にて更衣させる。その際番号が変わっても良い
- ・判定に対する異議申立は1時間以内に口頭で、さらに2時間以内に文書で行うこと。その際は5万円納付金が必要で、申立内容が認められた場合は返金される。詳細は別紙要領にて確認要